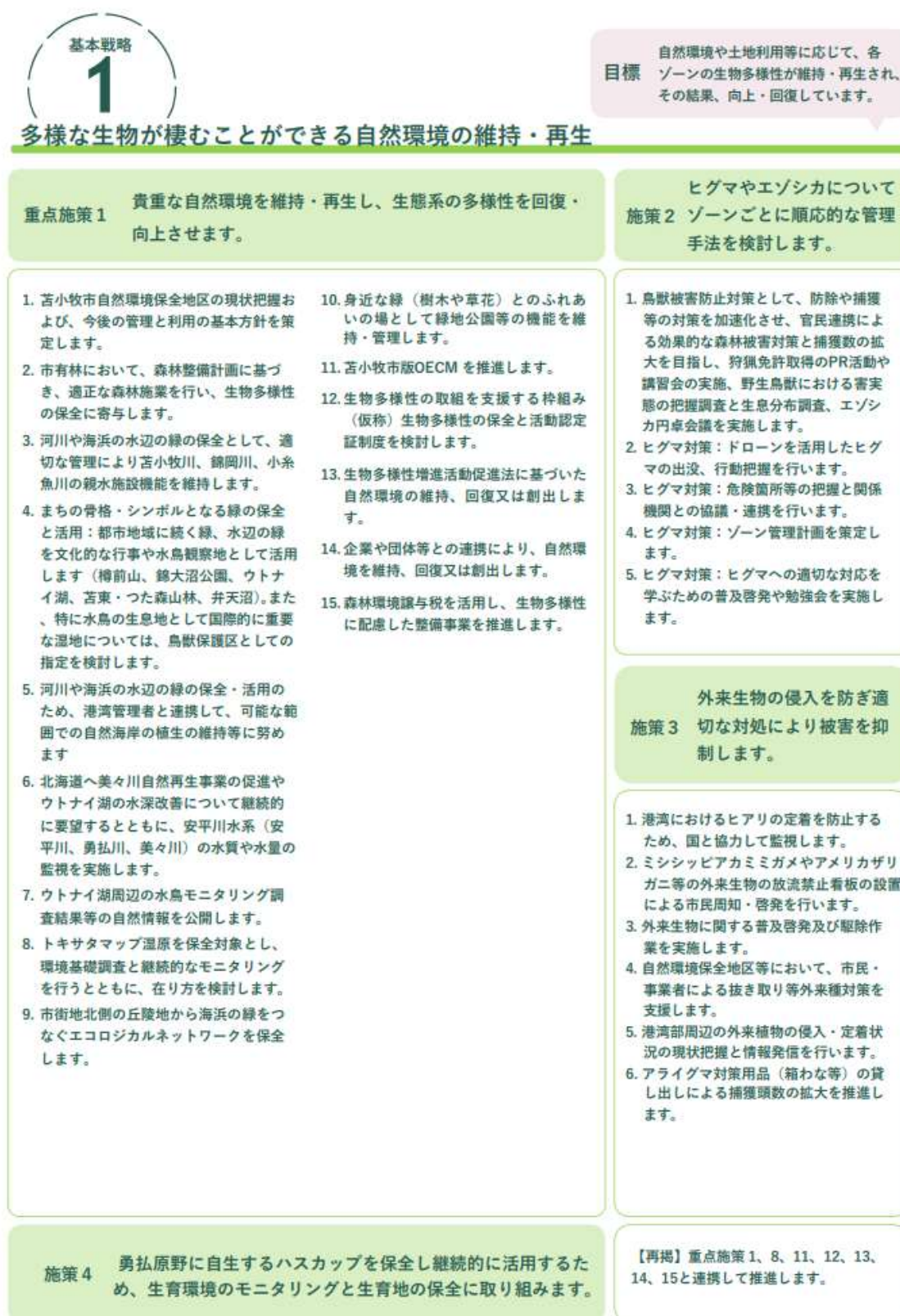


3. 5つの基本戦略に基づく施策

(1) 施策の全体体系

5つの基本戦略に基づき展開する、施策（重点施策含む）の全体体系を示します。



基本戦略

2

目標

関係部署や関係機関が連携して、施策課題の解決に生物多様性を活用して取り組んでいます。

様々な施策課題の解決に、山－川－湿原－湖沼－海の生態系を活用

重点
施策1

自然を活用した解決策（NbS）を導入し、生物多様性保全、気候変動緩和、循環型社会の構築をさらに推進します。

1. 【①1-5 再掲】河川や海浜の水辺の緑の保全・活用のため、港湾管理者と連携して、可能な範囲での自然海岸の植生の維持等に努めます。
2. 再生可能エネルギー導入に係るリスクの可視化と点検を実施します。
3. 雨水貯留等のグリーンインフラ機能の維持としての、安平川水系河川整備計画における、弁天沼周辺の河道内調整地の生物多様性の保全に配慮した工事の実施を要望します。

施策2

多様なステークホルダー（利害関係者）が連携することで、社会課題の解決につなげます。

1. 生物多様性保全に資する研究・活動にフィールドを提供します。
2. 海岸の生物多様性保全として、団体・市民等と協力した海岸清掃や、生分解性プラスチックへの移行推進を行います。

基本戦略

3

目標

生物多様性の恵み（ハスカップ等の自然資源や水産資源、農作物、豊富な水等）により、新たなビジネス展開を生みだしています。

ネイチャーポジティブを達成する地域産業や市民の暮らしの活性化

重点
施策1

生物多様性に配慮したビジネスモデルへの確実な移行と、苫小牧市特有の生物多様性（豊富な水やハスカップ等）を活用した産業を創出・育成します。

1. 【①1-12 再掲】生物多様性の取組を支援する枠組み（仮称）生物多様性の保全と活動認定証制度を検討します。
2. ハスカップ、ヤチヤナギ等、自生種の保存と活用に向けた活動を推進し、保護増殖等の取組を支援します。
3. エゾシカの適正管理による被害の軽減と有効活用を推進します。

施策2

持続可能な農林水産業への転換を積極的に推進します。

1. 漁獲対象種のサイズ制限や禁漁期間の設定等により、ホッキガイ、サケ、マツカワ等の持続可能な水産資源の確保と、ふ化事業を推進します。
2. 地場産品の積極的な学校給食への活用推進と、子供たちへの食育を行います。
3. 環境負荷低減に配慮した農業の普及啓発に取り組みます。

施策3

生物多様性を活用して二次・三次産業を積極的に支援します。

1. 樽前山、美々川、ウトナイ湖を対象とした苫小牧市への誘致モニターツアーを実施し、生物多様性を学べるモデルコースを設定します。
2. エコツーリズムに関する情報（ツアーやフットパス等）を集約して発信し、エコツーリズムにおけるマナーの啓発も行います。
3. エコツーリズムとしての野鳥観察や湿原利用のルールを作成します。
4. ビジット苫小牧観光会議等の場を活用し、エコツーリズムの気運の醸成を図ります。

基本戦略

4

目標

全ての人が自然再興に向けて行動変容をし、あらゆる自然の恵みを活用して豊かな生活を送っています。

自然と生きものと共存できる暮らしへの転換、潤いある生活と文化の継承

重点 環境教育を強化し、生物多様性に関わるユース世代の活躍を支援します。

施策1

1. 小学校等での環境教育を実施します。
2. 環境副読本の更新時に、生物多様性に関する記載を盛り込みます。
3. 地域と連携した緑化活動等にて、自然環境や生物多様性について学べる環境教育を実施します。
4. プラスチックごみの排出量を削減するために、市民や事業者の行動変容を促すための支援を実施します。

施策2

生物多様性を活用し、誰もがウェルビーイング（身体的に良好なだけでなく心身ともに満たされた状態）を感じられるまちを実現します。

1. 道の駅、ウトナイ湖遊歩道等、自然と触れ合う場の維持・管理や利用者に対する情報発信を実施します。
2. 生物多様性や文化継承に関連する講座や資格講習会の実施、ボランティア機会の創出、人材育成、緑化相談、情報発信等を実施します。
3. 北海道大学苫小牧研究林の研究活動や教育活動を広く市民に共有する機会を支援します。
4. 就労支援として、生物多様性の保全に役立つ技術習得（緑地管理の軽作業や、自然の知識等）のためのプログラムを実施します。
5. ウェルビーイングを向上するため、誰もが（多様な対象）自然の恩恵を受けられるよう、緑や生きものをとおした自然体験の機会を創出します。

施策3

樽前山から海へと続く、苫小牧ならではの郷土の風景、文化を維持します。

1. 【②2-2 再掲】海岸の生物多様性保全として、団体・市民等と協力した海岸清掃や、生分解性プラスチックへの移行推進を行います。

**野生動物と人との軋轢を
施策4 解消するため、具体的な
対策を検討します。**

1. エゾシカ円卓会議を継続して実施することで、対応策の検討に活かします。
2. 市民向けの野生動物に関する勉強会や出前講座等を実施します。
3. 苫小牧市自然環境保全審議会による協力体制の構築と進捗管理を行います。

基本戦略

5

自然・生物情報を活用するための基盤整備

目標

自然情報データベースを活用して保全対策や新たな施策が実行されています。

科学的なデータや自然情報の蓄積と共有、情報交換の場を整備、市域全体の生態系ネットワークを見える化（地図化）し、基本戦略①②③④を円滑にかつ具体的に進めます。

施策2

生物多様性の向上に資する取組を支援する制度設計を推進します。

施策3

北海道、周辺市町村、国との連携を強化し、産学官民のALL苫小牧で、生物多様性の保全対策を推進します。

1. 国や北海道、苫小牧市美術館等と連携して、基礎的な生物調査や環境調査を実施し、科学的なデータを蓄積します。
2. 自然環境に関する情報（生物情報データベース、自然利用ルール等の教育情報、エコツーリズム情報等）をオンラインのポータルに集約して公開し、SNS等も活用して情報を発信します。
3. 保全活動に活用するため、ハスカップやヤチヤナギの自生地情報を苫小牧市美術館で集約し、自生地マップを作成します。
4. 生物多様性の回復・創出支援用の生物多様性現状マップ（多様性の向上が可能、劣化地を示したマップ）を随時更新します。
5. 苫小牧市指標種の選定を行います。
6. 苫小牧市版レッドリストを作成します。
7. 指標種を対象とした市民参加型調査を実施します。

1. 環境保全や生物多様性に配慮した企業の取組に対してのインセンティブ（入札参加要件の優遇、加算措置等）を設定します。
2. 市の事業で生物多様性への不可逆的な作用がないか点検します。

1. 近隣自治体及び北海道、国との広域連携を強化します。また、必要に応じて生物多様性地域戦略の見直し等を行い、ALL苫小牧で戦略を確実に推進します。

(2) 施策と具体的な取組

以下に示したそれぞれの具体的な取組は、本戦略の策定時に新しく定めた「新規の取組」、関係する他計画において既に実施されている取組については、「継続する取組」と、より生物多様性の向上に寄与するように取組内容を「拡充する取組」として再構築しました。取組にはその達成度を評価する指標を設定し、取組の有効性が見える形で評価します。

基本戦略 ①：多様な生物が棲むことができる自然環境の維持・再生

施策 1：【重点】貴重な自然環境を維持・再生し、生態系の多様性を回復・

向上させます。

<施策を推進する取組>

取組 ID	取組内容			取組種類
指標	指標内容			
関連ゾーン	ゾーン番号	関連部署	部署名	

1.	苫小牧市自然環境保全地区の現状把握および、今後の管理と利用の基本方針を策定します。			拡充
指標	現地調査の実施 管理と利用の基本方針の策定			
関連ゾーン	C, E, D	関連部署	環境衛生部環境生活課	

2.	市有林において、森林整備計画に基づき、適正な森林施業を行い、生物多様性の保全に寄与します。			拡充
指標	市有林森林施業面積 指標種の確認（有無/毎年）			
関連ゾーン	C	関連部署	・都市建設部緑地公園課 ・環境衛生部環境生活課	

3.	河川や海浜の水辺の緑の保全として、適切な管理により苫小牧川、錦岡川、小糸魚川の親水施設機能を維持します。			拡充
指標	親水施設機能の維持			
関連ゾーン	C, E	関連部署	都市建設部維持課	

基本戦略① 施策 1

4.	まちの骨格・シンボルとなる緑の保全と活用：都市地域に続く緑、水辺の緑を文化的な行事や水鳥観察地として活用します（樽前山、錦大沼公園、ウトナイ湖、苫東・つた森山林、弁天沼）。また、特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地については、鳥獣保護区としての指定を検討します。		拡充
指標	生物多様性に寄与する活用実績件数（1件/年）		
関連ゾーン	A, B, C, D, E	関連部署	・都市建設部緑地公園課 ・環境衛生部環境生活課
5.	河川や海浜の水辺の緑の保全・活用のため、港湾管理者と連携して、可能な範囲での自然海岸の植生の維持等に努めます。		拡充
指標	指標種の確認（有無/毎年）		
関連ゾーン	E, F	関連部署	・産業経済部企業政策室港湾・企業振興課 ・都市建設部維持課 ・環境衛生部環境生活課
6.	北海道へ美々川自然再生事業の促進やウトナイ湖の水深改善について継続的に要望するとともに、安平川水系（安平川、勇払川、美々川）の水質や水量の監視を実施します。		拡充
指標	水質・水量の監視（1回1/年）		
関連ゾーン	C, D	関連部署	・環境衛生部ゼロカーボン推進室 ・総合政策部まちづくり推進室空港政策課 ・環境衛生部環境生活課
7.	ウトナイ湖周辺の水鳥モニタリング調査結果等の自然情報を公開します。		継続
指標	調査結果の公表（常時）		
関連ゾーン	D	関連部署	環境衛生部環境生活課
8.	トキサタマップ湿原を保全対象とし、環境基礎調査と継続的なモニタリングを行うとともに、在り方を検討します。		拡充
指標	環境基礎調査とモニタリングの実施 在り方の検討		
関連ゾーン	C	関連部署	環境衛生部環境生活課

基本戦略① 施策 1

9.	市街地北側の丘陵地から海浜の緑をつなぐエコロジカルネットワークを保全します。		拡充
指標	指標種の確認（有無/毎年）		
関連ゾーン	C, D, E, F	関連部署	都市建設部維持課
10.	身近な緑（樹木や草花）とのふれあいの場として公園や緑地を適切に維持・管理します。		継続
指標	市民一人当たりの公園・緑地の開設面積（ha）		
関連ゾーン	C, D, E, F	関連部署	都市建設部緑地公園課
11.	苫小牧市版 OECM を推進します。		新規
指標	“T-OECM（仮称）” 認証件数（5 件/令和 12 年（2030 年）まで）		
関連ゾーン	C, D, E, F	関連部署	環境衛生部環境生活課
12.	生物多様性の取組を支援する枠組み（仮称）生物多様性の保全と活動認定証制度を検討します		新規
指標	認証制度の導入検討		
関連ゾーン	-	関連部署	環境衛生部環境生活課
13.	生物多様性増進活動促進法に基づいた自然環境の維持、回復又は創出します。		新規
指標	「連携増進活動実施計画」の提出、「生物多様性維持協定」の締結		
関連ゾーン	-	関連部署	環境衛生部環境生活課
14.	企業や団体等との連携により、自然環境を維持、回復又は創出します。		新規
指標	連携した取組の回数（3 回/年）		
関連ゾーン	-	関連部署	・環境衛生部環境生活課 ・産業経済部企業政策室港湾・企業振興課 ・環境衛生部ゼロごみ推進室ゼロごみ推進課
15.	森林環境譲与税を活用し、生物多様性に配慮した整備事業を推進します。		新規
指標	譲与税を利用した事業の検討		
関連ゾーン	-	関連部署	・環境衛生部環境生活課 ・都市建設部緑地公園課

基本戦略①

施策２：ヒグマやエゾシカについてゾーンごとに順応的な管理手法を検討しま

す。

<施策を推進する取組>

1.	鳥獣被害防止対策として、防除や捕獲等の対策を加速化させ、官民連携による効果的な森林被害対策と捕獲数の拡大をめざし、狩猟免許取得のPR活動や講習会の実施、野生鳥獣における被害実態の把握調査と生息分布調査、エゾシカ円卓会議を実施します。			拡充
指標	エゾシカ捕獲頭数の増加（180頭/年）			
関連ゾーン	-	関連部署	環境衛生部環境生活課	
2.	ヒグマ対策：ドローンを活用したヒグマの出没、行動把握を行います。			新規
指標	調査の実施			
関連ゾーン	全域	関連部署	環境衛生部環境生活課	
3.	ヒグマ対策：危険箇所等の把握と関係機関との協議・連携を行います。			新規
指標	ヒグマ対応訓練の実施（1回/年）			
関連ゾーン	-	関連部署	環境衛生部環境生活課	
4.	ヒグマ対策：ゾーン管理計画を策定します。			新規
指標	計画の策定			
関連ゾーン	-	関連部署	環境衛生部環境生活課	
5.	ヒグマ対策：ヒグマへの適切な対応を学ぶための普及啓発や勉強会を実施します。			新規
指標	勉強会の実施回数（1回/年） 普及啓発のための情報発信			
関連ゾーン	-	関連部署	環境衛生部環境生活課	

基本戦略①

施策3：外来生物の侵入を防ぎ適切な対処により被害を抑制します。

<施策を推進する取組>

1.	港湾におけるヒアリの定着を防止するため、国と協力して監視します。		拡充
指標	ヒアリの定着件数（0件（無し）/令和12年（2030年）まで）		
関連ゾーン	F	関連部署	・環境衛生部環境生活課 ・産業経済部企業政策室港湾・企業振興課
2.	ミシシippアカミミガメやアメリカザリガニ等の外来生物の放流禁止看板の設置による市民周知・啓発を行います。		拡充
指標	啓発・注意看板の設置		
関連ゾーン	C	関連部署	・環境衛生部環境生活課 ・都市建設部緑地公園課
3.	外来生物に関する普及啓発及び駆除作業を実施します。		拡充
指標	外来生物の駆除の実施（1回/年）		
関連ゾーン	-	関連部署	環境衛生部環境生活課
4.	自然環境保全地区等において、市民・事業者による抜き取り等外来種対策を支援します。		新規
指標	外来種対策実施件数（1件/年）		
関連ゾーン	C, D, E	関連部署	環境衛生部環境生活課
5.	港湾部周辺の外来植物の侵入・定着状況の現状把握と情報発信を行います。		新規
指標	現状把握と情報発信		
関連ゾーン	D, F	関連部署	環境衛生部環境生活課
6.	アライグマ対策用品（箱わな等）の貸し出しによる捕獲頭数の拡大を推進します。		新規
指標	捕獲頭数（500頭/年）		
関連ゾーン	-	関連部署	環境衛生部環境生活課

基本戦略①

施策 4 : 勇払原野に自生するハスカップを保全し継続的に活用するため、生育環境
のモニタリングと生育地の保全に取り組みます。

(重点施策 1,8,11,12,13,14,15 と連携して推進します。)

基本戦略 ② : 様々な施策課題の解決に、山-川-湿原-湖沼-海の生態系を活用

施策 1 : 【重点】自然を活用した解決策 (NbS) を導入し、生物多様性保
全、気候変動緩和、循環型社会の構築をさらに推進します。

<施策を推進する取組>

1.	【基本戦略①施策 1-5 再掲】河川や海浜の水辺の緑の保全・活用のため、港湾管理者と連携して、可能な範囲での自然海岸の植生の維持等に努めます。			拡充
指標	【再掲】指標種の確認 (有無/毎年)			
関連ゾーン	E, F	関連部署	・産業経済部企業政策室港湾・企業振興課 ・都市建設部維持課 ・環境衛生部環境生活課	
2.	再生可能エネルギー導入に係るリスクの可視化と点検を実施します。			拡充
指標	点検の実施			
関連ゾーン	-	関連部署	環境衛生部ゼロカーボン推進室	
3.	雨水貯留等のグリーンインフラ機能の維持としての、安平川水系河川整備計画における、弁天沼周辺の河道内調整地の生物多様性の保全に配慮した工事の実施を要望します。			拡充
指標	継続的な要望・工事の監視			
関連ゾーン	D	関連部署	環境衛生部環境生活課	

基本戦略②

施策2：多様なステークホルダー（利害関係者）が連携することで、社会

課題の解決につなげます。

＜施策を推進する取組＞

1.	生物多様性保全に資する研究・活動にフィールドを提供します。	拡充
指標	フィールド提供件数（3件/令和12年（2030年）まで）	
関連ゾーン	C, D, E, F	関連部署 環境衛生部環境生活課
2.	海岸の生物多様性保全として、団体・市民等と協力した海岸清掃や、生分解性プラスチックへの移行推進等を行います。	継続
指標	海岸清掃の実施回数（3回/年）	
関連ゾーン	F	関連部署 環境衛生部ゼロごみ推進室ゼロごみ推進課

基本戦略 ③：ネイチャーポジティブを達成する地域産業や市民の暮らしの活性化

施策 1：【重点】生物多様性に配慮したビジネスモデルへの確実な移行と、

苫小牧市特有の生物多様性（豊富な水やハスカップ等）を活用した

産業を創出・育成します。

<施策を推進する取組>

1.	【基本戦略①施策 1-12 再掲】生物多様性の取組を支援する枠組み（仮称）生物多様性の保全と活動認定証制度を検討します。	新規
指標	【再掲】認証制度の導入検討	
関連ゾーン	-	関連部署 環境衛生部環境生活課
2.	ハスカップ、ヤチヤナギ等、自生種の保存と活用に向けた活動を推進し、保護増殖等の取組を支援します。	拡充
指標	ハスカップバンクへの参加団体数増加 取組参加者の増加（8 団体、延べ参加者数の増） ハスカップやヤチヤナギの遺伝資源の保存場所の確保目標値（3 箇所/2030 年まで）	
関連ゾーン	C, D, E	関連部署 ・環境衛生部環境生活課 ・都市建設部緑地公園課
3.	エゾシカの適正管理による被害の軽減と有効活用を推進します。	新規
指標	農業被害の低減 野生鳥獣による被害額（前年比で減少） 交通事故件数（前年比で減少）	
関連ゾーン	B, C, D, E, F	関連部署 ・環境衛生部環境生活課 ・産業経済部産業振興室農業水産振興課

基本戦略③

施策２：持続可能な農林水産業への転換を積極的に推進します。

<施策を推進する取組>

1.	漁獲対象種のサイズ制限や禁漁期間の設定等により、ホッキガイ、サケ、マツカワ等の持続可能な水産資源の確保と、ふ化事業を推進します。		拡充
指標	水産資源の増殖事業に対する補助の実施		
関連ゾーン	F	関連部署	産業経済部産業振興室農業水産振興課

2.	地場産品の積極的な学校給食への活用推進と、子供たちへの食育を行います。		拡充
指標	持続可能な地場産品を使った学校給食の提供回数（4回/年）		
関連ゾーン	-	関連部署	教育部学校給食共同調理場

3.	環境負荷低減に配慮した農業の普及啓発に取り組みます。		新規
指標	普及啓発の実施		
関連ゾーン	C	関連部署	産業経済部産業振興室農業水産振興課

基本戦略③

施策 3 : 生物多様性を活用して二次・三次産業を積極的に支援します。

<施策を推進する取組>

1.	樽前山、美々川、ウトナイ湖を対象とした苫小牧市への誘致モニターツアーを実施し、生物多様性を学べるモデルコースを設定します。	拡充
指標	モデルコースの設定 モデルコースの情報発信	
関連ゾーン	A, D	関連部署 ・環境衛生部環境生活課 ・産業経済部産業振興室観光振興課
2.	エコツーリズムに関する情報（ツアーやフットパス等）を集約して発信し、エコツーリズムにおけるマナーの啓発も行います。	拡充
指標	情報発信ポータルを設置	
関連ゾーン	-	関連部署 ・環境衛生部環境生活課 ・産業経済部産業振興室観光振興課
3.	エコツーリズムとしての野鳥観察や湿原利用のルールを作成します。	拡充
指標	利用ルールの作成	
関連ゾーン	-	関連部署 ・環境衛生部環境生活課 ・産業経済部産業振興室観光振興課
4.	ビジット苫小牧観光会議等の場を活用し、エコツーリズムの気運の醸成を図ります。	新規
指標	-	
関連ゾーン	-	関連部署 ・環境衛生部環境生活課 ・産業経済部産業振興室観光振興課

基本戦略 ④：

自然と生きものと共存できる暮らしへの転換、潤いある生活と文化の継承

施策 1：【重点】環境教育を強化し、生物多様性に関わるユース世代の活躍

を支援します。

<施策を推進する取組>

1.	小学校等での環境教育を実施します。			拡充
指標	小学校等における「自然ふれあい事業（ウトナイ・生きものラボ）」「こころの授業」の実施回数（50回/年）			
関連ゾーン	-	関連部署	・環境衛生部環境生活課 ・教育部指導室	
2.	環境副読本の更新時に、生物多様性に関する記載を盛り込みます。			新規
指標	副読本に生物多様性を記載			
関連ゾーン	-	関連部署	環境衛生部環境生活課	
3.	地域と連携した緑化活動等にて、自然環境や生物多様性について学べる環境教育を実施します。			拡充
指標	生物多様性を学ぶ自然体験・環境教育の実施件数（1件/年）			
関連ゾーン	-	関連部署	・環境衛生部環境生活課	
4.	プラスチックごみの排出量を削減するために、市民や事業者の行動変容を促すための支援を実施します。			拡充
指標	支援事業の件数（2件）			
関連ゾーン	-	関連部署	環境衛生部ゼロごみ推進室ゼロごみ推進課	

基本戦略④

施策 2 : 生物多様性を活用し、誰もがウェルビーイング（身体的に良好なだけでなく心身ともに満たされた状態）を感じられるまちを実現します。

<施策を推進する取組>

1.	道の駅、ウトナイ湖遊歩道等、自然と触れ合う場の維持・管理や利用者に対する情報発信を実施します。			拡充
指標	自然情報の発信回数（12回/年）			
関連ゾーン	D	関連部署	・環境衛生部環境生活課 ・産業経済部産業振興室観光振興課	
2.	生物多様性や文化継承に関連する講座や資格講習会の実施、ボランティア機会の創出、人材育成、緑化相談、情報発信等を実施します。			拡充
指標	ボランティア活動の機会（5回/年） 講座や講習会等の実施（3回/年）			
関連ゾーン	-	関連部署	・環境衛生部環境生活課 ・都市建設部緑地公園課 ・教育部美術博物館	
3.	北海道大学苫小牧研究林の研究活動や教育活動を広く市民に共有する機会を支援します。			拡充
指標	研究活動の公開や利用の件数（2件/年） 苫小牧研究林が実施する環境教育活動への支援策の検討			
関連ゾーン	B	関連部署	環境衛生部環境生活課	
4.	就労支援として、生物多様性の保全に役立つ技術習得（緑地管理の軽作業や、自然の知識等）のためのプログラムを実施します。			新規
指標	就労支援プログラムの実施			
関連ゾーン	C, E, D	関連部署	・福祉部総合福祉課 ・福祉部障がい福祉課	
5.	ウェルビーイングを向上するため、誰もが（多様な対象）自然の恩恵を受けられるよう、緑や生きものをとoshita自然体験の機会を創出します。			新規
指標	多様な対象に向けた自然体験の機会創出			
関連ゾーン	B, C, E, D	関連部署	・教育部美術博物館 ・環境衛生部環境生活課 ・福祉部総合福祉課 ・福祉部障がい福祉課	

基本戦略④

施策3：樽前山から海へと続く、苫小牧ならではの郷土の風景、文化を維持します。

<施策を推進する取組>

1.	【②2-2 再掲】海岸の生物多様性保全として、団体・市民等と協力した海岸清掃や、生分解性プラスチックへの移行推進等を行います。			拡充
指標	海岸清掃の実施回数（1回/年）			
関連ゾーン	-	関連部署	環境衛生部ゼロごみ推進室ゼロごみ推進課	

基本戦略④

施策4：野生動物と人との軋轢を解消するため、具体的な対策を検討します。

<施策を推進する取組>

1.	エゾシカ円卓会議を継続して実施することで、対応策の検討に活かします			拡充
指標	エゾシカに関する交通事故件数の減少（前年比で減少） 農業被害の金額（前年比で減少）			
関連ゾーン	-	関連部署	- 産業経済部産業振興室農業水産振興課 - 環境衛生部環境生活課	
2.	市民向けの野生動物に関する勉強会や出前講座等を実施します。			拡充
指標	勉強会や出前講座の実施件数（4回/年）			
関連ゾーン	-	関連部署	- 産業経済部産業振興室農業水産振興課 - 環境衛生部環境生活課	
3.	苫小牧市自然環境保全審議会による協力体制の構築と進行管理を行います。			新規
指標	苫小牧市自然環境保全審議会での進捗報告（1回/年）			
関連ゾーン	-	関連部署	環境衛生部環境生活課	

基本戦略 ⑤：自然・生物情報を活用するための基盤整備

施策 1：【重点】科学的なデータや自然情報の蓄積と共有、情報交換の場を整備、市域全体の生態系ネットワークを見える化（地図化）し、基本戦略①②③④を円滑にかつ具体的に進めます。

<施策を推進する取組>

1.	国や北海道、苫小牧市美術博物館等と連携して、基礎的な生物調査や環境調査を実施し、科学的なデータを蓄積します。	拡充
指標	生物情報データベース作成	
関連ゾーン	-	関連部署 ・環境衛生部環境生活課 ・教育部美術博物館
2.	自然環境に関する情報（生物情報データベース、自然利用ルール等の教育情報、エコツーリズム情報等）をオンラインのポータルに集約して公開し、SNS 等も活用して情報を発信します。	拡充
指標	ポータルの設置 SNS の活用回数（4 回/年）	
関連ゾーン	-	関連部署 環境衛生部環境生活課
3.	保全活動に活用するため、ハスカップやヤチヤナギの自生地情報を苫小牧市美術博物館で集約し、自生地マップを作成します。	新規
指標	地図情報の整備	
関連ゾーン	-	関連部署 ・環境衛生部環境生活課 ・教育部美術博物館
4.	生物多様性の回復・創出支援用の生物多様性現状マップ（多様性の向上が可能、劣化地を示したマップ）を随時更新します。	新規
指標	マップの作成・更新	
関連ゾーン	-	関連部署 環境衛生部環境生活課
5.	苫小牧市指標種の選定を行います。	新規
指標	指標種の選定	
関連ゾーン	-	関連部署 ・環境衛生部環境生活課 ・教育部美術博物館

基本戦略⑤ 施策1

6.	苫小牧市版レッドリストを作成します。			新規
指標	レッドリストの作成			
関連ゾーン	-	関連部署	・環境衛生部環境生活課 ・教育部美術博物館	

7.	指標種を対象とした市民参加型調査を実施します。			新規
指標	調査の実施件数（3件/令和12年（2030年）まで）			
関連ゾーン	A, B, C, D, E, F	関連部署	環境衛生部環境生活課	

基本戦略⑤

施策2：生物多様性の向上に資する取組を支援する制度設計を推進します。

<施策を推進する取組>

1.	環境保全や生物多様性に配慮した企業の取組に対してのインセンティブ（入札参加要件の優遇、加算措置等）を設定します。			新規
指標	インセンティブの導入検討			
関連ゾーン	-	関連部署	環境衛生部環境生活課	

2.	市の事業で生物多様性への不可逆的な作用がないか点検します。			新規
指標	事業の点検			
関連ゾーン	-	関連部署	環境衛生部環境生活課	

基本戦略⑤

施策3：北海道、周辺市町村、国との連携を強化し、産学官民のALL苫小牧

で、生物多様性の保全対策を推進します。

<施策を推進する取組>

1.	近隣自治体及び北海道、国との広域連携を強化します。また、必要に応じて生物多様性地域戦略の見直し等を行い、ALL苫小牧で戦略を確実に推進します。			新規
指標	協力体制の構築 生物多様性地域戦略の見直し			
関連ゾーン	-	関連部署	環境衛生部環境生活課	